

単位クラブ補助金問題を巡り知事との面談を実施

兵庫県では、県政改革の一環として、昨年度から、単位老人クラブへの補助金について検討を進めてこられました。

このため、県老連としては、6月22日の生安福祉部長をはじめとする福祉部の幹部の方々と意見交換を行った上に、10月26日、齋藤知事と中村県老連会長との面談を行いました。

この面談では、中村会長から、県の老人クラブに対する手厚い支援について感謝を申し上げる一

方、コロナ禍にあって、

会員数・加入クラブ数が大きく落ち込んでいる状況等について説明を行うとともに、補助水準の維持を強く要望し、これを受けて齋藤知事は、「今の時期に事業を見直すのは影響が大きいので、当面は続けることが大事だと考えている。」旨、表明されました。

県老連としては、コロナ禍が依然終息の見込みが立ちにくい中にあつても、県から示された方針に沿い、兵庫スタイルを守り

単位老人クラブ補助金維持



ながら、老人クラブ活動・会員の交流の輪をさらに拡げていく決意です。

福島県大熊町老連との交流事業

つながりと交流を

令和4年11月9日及び10日、福島県大熊町老連の杉本会長以下6名が兵庫県を訪問されました。大熊町老連は、東日本大震災で被災した東京電力福島第一原子力発電所が所在する老人クラブで、今なお、会員の皆様は不自由な生活を余儀なくされておられます。本県への来県は、11月

8日に開催された全老連全国大会への参加に引き続き、被災地支援としてタマネギをお送りしている本県へのお礼のための訪問となったものです。

ご一行は、訪問の両日とも淡路島にお越しになり、タマネギ畑の所有者である不動産ご夫妻や、ボランティアコーディネーターの南あわじ市の山口幸雄氏、さらに震災からの復興時に東北経済

他府県交流事業(富山県老連、長野県老連)

富山と長野を満喫

令和4年10月27日～29日の3日間、県老連では、他府県交流事業を実施しました。

この事業は、コロナ禍により、令和2年度と令和3年度の全老連全国大会が事実上中止になったことを踏まえ、両大会で全老連会長表彰を受けられた



松本城にて



中部山岳国立公園にて

方を中心に13名が参加し、富山県老連及び長野県老連との交流を行うものです。

あいにく日程の関係上、両府県との面談交流は実施できなかつたものの、事務局から両老連の事業報告を受け、松本城、黒四ダム、黒部アルペンルート、黒部溪谷トロッコ列車を巡る視察行程を組み、とりわけ黒部アルペンルートは、稀にみる好天に恵まれ、参加者の交流が大いに図られました。

産業局長として深く関わられた南あわじ市の守本市長にもご参加いただき、交流を深めることができました。



わたしたちはのじぎくクラブ兵庫の活動をサポートしています

県老連事業報告

きずな



第213号

- ・補助金問題による齋藤知事との面談
- ・他府県交流事業(富山県老連、長野県老連)
- ・福島県大熊町老連との交流事業